



Museum UnLearning Program for All

みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業—

2022年度マルパ研修会(第1回・第2回)

博物館・美術館等の学芸員や職員を対象に、世界のミュージアムのインクルーシブな潮流や演劇を用いた多文化共生の取り組みについて理解を深めるためのセミナーです。これからのミュージアム運営についてのヒントが見つかるかもしれません。ぜひご参加ください。

第1回

DEAI の概念からインクルーシブなミュージアムを考える

本発表では、ミュージアムを巡る国際的な動向と台湾のミュージアムの展開に注目し、様々なミュージアム活動例を紹介しながら、現代ミュージアム活動を考察する上で、重要な視点である「多様性」(diversity)、「公平性」(equity)、「アクセシビリティ」(accessibility)、「包摂性」(inclusion)の概念(本発表では DEAI とする)について述べ、参加者とともにインクルーシブなミュージアムについて考える機会にしたい。

日時：2023年2月18日(土) 14:00~15:30 (視聴サイト入室可能 13:30~)

形式：オンライン (ZOOM ウェビナー)

講師：邱君妮氏 (Jenny CHIU 氏)
(東京文化財研究所文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 博士(学術))



参加費：無料 定員：30名

第2回

演劇を用いた多文化共生の試み

2008年から岐阜県可児市で開始した演劇による多文化共生の取り組みでは、外国人と日本人が言語・非言語を駆使して表現し、創作活動の中で対話を模索してきました。そして今、“超多国籍都市”である東京で、同じ試みを展開しようとしています。共通言語が無い中で「ドキュメンタリー演劇」という手法を用いた交流と相互理解について、その成果と課題についてご紹介します。

日時：2023年3月18日(土) 14:00~15:30 (視聴サイト入室可能 13:30~)

形式：オンライン (ZOOM ウェビナー)

講師：田室寿見子氏
(演劇ユニット Sin Titulo 主宰、東京芸術劇場人材育成担当係長)



参加費：無料 定員：30名

申込方法 タイトルを「マルパ研修会」として、本文に①氏名、②電話番号、③メールアドレス、④お住まいの自治体(市区町村のみ)、⑤ご所属(任意)をご記入いただき、メールアドレス(mulpa@kifjp.org)宛てにお送り下さい。

申込締切 **【第1回】2023年2月15日(水) 【第2回】2023年3月15日(水)**

お問い合わせ 公益財団法人かながわ国際交流財団 担当 大塚

TEL 045-620-5045 E-mail mulpa@kifjp.org



URL: <http://www.kifjp.org/mulpa/>

登壇者の紹介

【第1回 DEAI の概念からインクルーシブなミュージアムを考える】

邱 君妮 (Jenny CHIU)

東京文化財研究所文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 博士 (学術)

ICOM 京都大会準備室研究員を経て、2021 年より現職。専門は博物館学。

多様化し、複雑化する社会のなかで、博物館が異なる文化間の対話を実現させるための方法論を見出すため、博物館における民主化や脱植民地化など博物館運営改革及び文化的市民権の実現を中心に、包摂的かつ協働的な博物館活動に関する研究を行なっている。

【第2回 演劇を用いた多文化共生の試み】

田室 寿見子 (たむろ すみこ)

演劇ユニット Sin Titulo 主宰、東京芸術劇場 人材育成担当係長

人種・言語・ジャンル等の枠組みを超えたパフォーマンス創作を目指し、2004 年に Sin Titulo を設立。日本外国特派員協会などを拠点に上演。2008 年に岐阜県の可児市文化創造センターの依頼により「多文化共生プロジェクト」を立ち上げ、総合ディレクターとして 2012 年まで製作。2014 年より東京芸術劇場において人材育成・教育普及を担当、2021 年より多文化共生事業を開始。

【開会あいさつ】

水沢 勉 (みずさわ つとむ)

マルパ実行委員会会長/神奈川県立近代美術館長

1952 年横浜生まれ。慶應義塾大学で修士号を得る。ウィーン世紀末、特にエゴン・シーレを研究。1978 年神奈川県立近代美術館の学芸員。2011 年以後、同館館長を務める。モダニズムの多様性を世紀転換期以後の日本・ドイツ語圏の近現代芸術に探る展覧会を企画。著作に『この終わりのときにも 世紀末芸術と現代』(思潮社、1989 年)等。



【司会】

平井 宏典 (ひらい・ひろのり)

マルパ実行委員会幹事/和光大学経済経営学部教授

相模湾・三浦半島アートリンク (SaMAL) 幹事。和光大学経済経営学部教授、博士 (経営学)。専門は、経営戦略、博物館経営。神奈川県真鶴町出身。小田原城町芸術祭 2022 ディレクター、茅ヶ崎ゆかりの人物館経営アドバイザー、文化庁委託研究事業「博物館の持続可能な経営に関する研究」企画評価委員会座長。博物館を中心に、文化芸術の社会的役割、その効用の最大化を経営学/ビジネスの視点から研究している。



当日のスケジュール

14:00~15:30 (司会 平井 宏典氏)

1. 開会あいさつ 水沢 勉氏

2. 講演 (2/18) 「DEAI の概念からインクルーシブなミュージアムを考える」 邱 君妮 氏
質疑応答

(3/18) 「演劇を用いた多文化共生の試み」 田室 寿見子氏
質疑応答

3. 参加者との意見交換・質疑応答 ※3については時間延長の可能性がございます。